

# ノルトライン・ヴェストファーレン（NRW）州のメッセの概要

2015年8月

在デュッセルドルフ日本国総領事館

## 経緯

NRW州のメッセの歴史は、1360年にケルン市がハンザ都市として年間2回のメッセ開催に関する特権を得たことに遡る。また、デュッセルドルフ市では、1811年に市庁舎に隣接する旧政権官房のホールで、産業・貿易展示会が開催され、ナポレオンが訪問したのが始まりとされている。また、エッセンでも1913年からRuhr Commercial Showという名称でメッセが開催されていた。

近代メッセ会場を使用して行われる形態は、1924年（ケルンメッセ社は1922年設立）に現在メッセ会場となっているケルン市ドイツ地区にハンス・フェアベーク設計によるメッセ会場が建設され、当時のケルン市長アデナウアーによって開館されたのを初めとして、1949年デュッセルドルフ（メッセ・デュッセルドルフ社設立は1947年）、1978年ドルトムント、1982年エッセンで現在のメッセ会社による見本市運営が始まった。

## 現状

**メッセ・デュッセルドルフ**は現在、デュッセルドルフ市56.50%、土地管理会社デュッセルドルフ・ライスホルツ20%、ノルトライン・ヴェストファーレン州20%、デュッセルドルフ商工会議所1.75%、デュッセルドルフ手工業会議所1.75%の出資で運営されており、従業員数はグループ全体で約1,200人にのぼる。**メッセ・デュッセルドルフ**で開催される専門見本市の種類50以上で、毎年あるいは数年の周期で開催されている。このうち約40の見本市は国際的・先導的見本市として注目されている。

2015年11月に行われるMEDICA「国際医療機器展」には例年、日本から多くの企業が出展する。また、2016年5月の世界最大規模のDRUPA「国際印刷・メディア産業展」（4年毎開催）、10月のK「国際プラスチック・ゴム専門見本市」（3年毎開催）が注目される。

**メッセ・デュッセルドルフ**は世界中にネットワークを広げており、130カ国をカバーする世界68都市に設置された在外代表部や東京のメッセ・デュッセルドルフ・ジャパン、アメリカ・シカゴのメッセ・デュッセルドルフ・ノースアメリカ、モスクワのメッセ・デュッセルドルフ・モスクワ、ニューデリーのメッセ・デュッセルドルフ・インド、シンガポールのメッセ・デュッセルドルフ・アジア、香港のメッセ・デュッセルドルフ・チャイナ等の直属の子会社は各国からの出展者や来場者のパートナーとして活躍している。また世界の重要マーケットに設置されたこれら直属の子会社はそれぞれの国内でも見本市を企画運営し、ドイツをはじめヨーロッパ各国からの機械・設備や消費財の輸出促進に大きく寄与している。

<メッセ・デュッセルドルフ・ジャパンの日本語公式サイト：[www.messe-dus.co.jp](http://www.messe-dus.co.jp)>

**ケルンメッセ**は1973年に民営化され、現在はケルン市79.025%、ノルトライン・ヴェストファーレン州20%、ケルン商工会議所0.725%、その他の関連団体0.25%が出資して運営されている。ケルンメッセの見本市の種類は約70で、毎年あるいは数年の周期で開催されている。

**ケルンメッセ**もまた世界中にネットワークがあり、世界100カ国以上に子会社や在外代表部を設置している。日本に置かれているケルンメッセ株式会社は、ヨーロッパやアジア地域に進出を考えてい

る中小企業、或いは商品ブランドを更に強化しようという企業の見本市への出展参加を斡旋している。また、国際性の高い見本市に初めて出展する企業でも安心して参加できるよう、様々な情報提供を行っている。

<ケルンメッセ株式会社の日本語公式サイト : [www.koelnmesse.jp](http://www.koelnmesse.jp)>

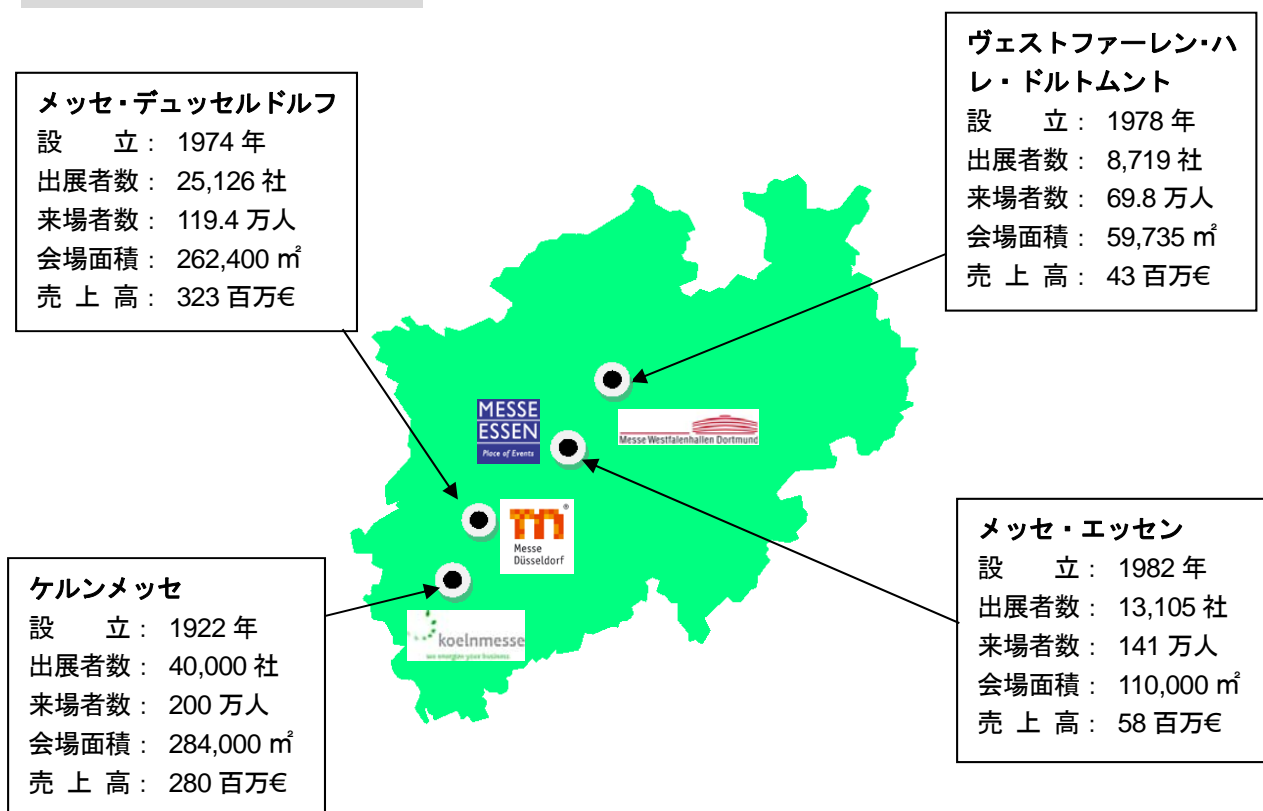
## 日独経済とメッセ

日本の見本市とドイツの見本市の違いは、日本では一般向けに商品を見せる場である一方で、ドイツでは専門家向けの商談の場となっていることである。また、日本では、メッセ会社は会場を貸すことが中心であるが、ドイツではメッセ会社自ら見本市を運営することが多いことも大きな違いである。メッセのメリットは、重要な商談・契約の場、交流促進・情報入手の場、企業のグローバル化の場となっていることである。また、同業他社、関連資材メーカー、バイヤーとの情報交換の場として活用されている。

日独経済関係におけるメッセの重要性としては、①日本の業界関係者がメッセツアーに参加して、世界の最新市場動向の把握、世界のトップメーカーとコンタクトの場として活用していること、②メッセへの出展により、ドイツ企業とのコンタクトをきっかけとして駐在員事務所開設に至るケースもあること、③日本においても業界関係者向けの専門見本市を開催することにより、商談の場としてのメッセの可能性が高まることが期待されることがあげられる。

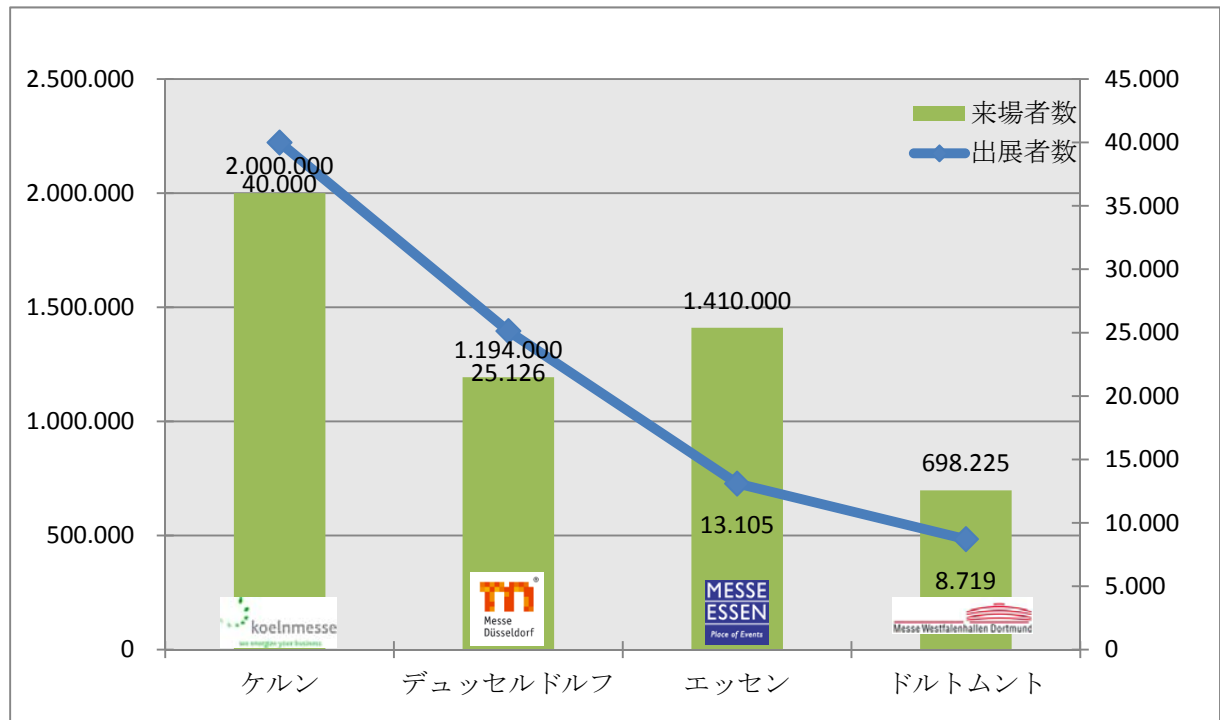
## NRW州内の主要メッセ会場

※数値は2013年の実績



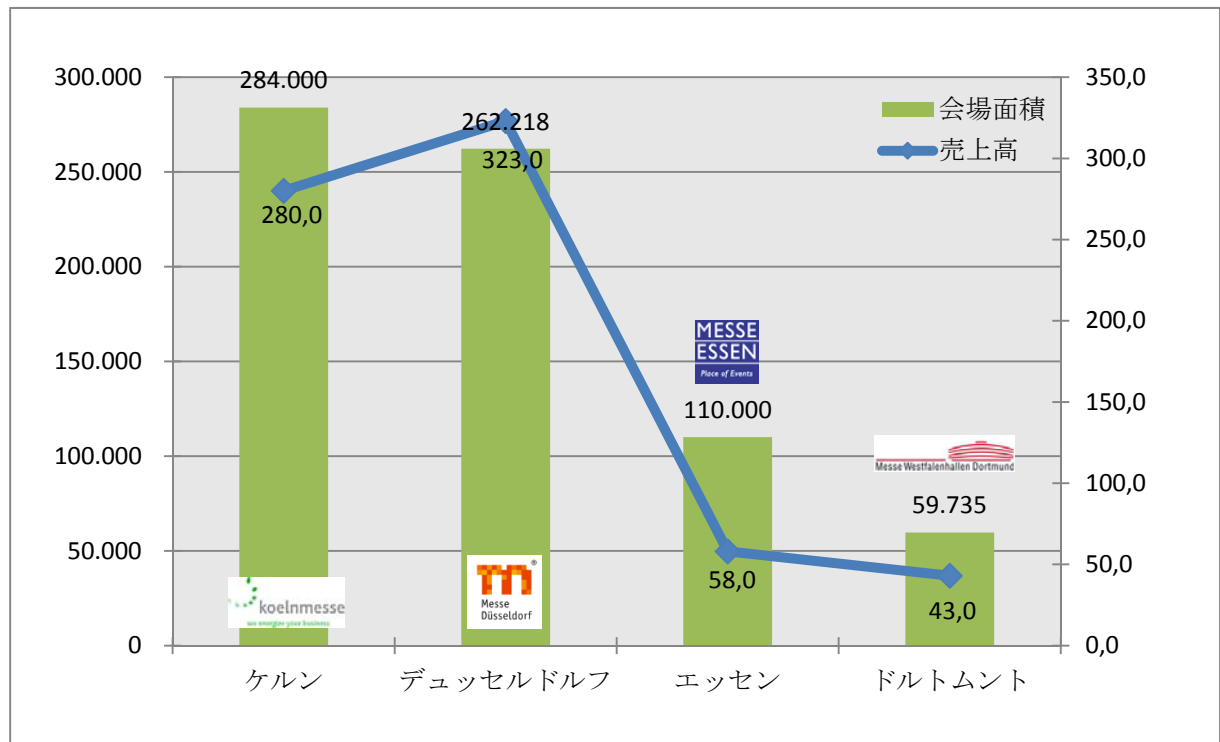
※この他にバードザルトツフレンに見本市会場があるが、NRW州への投資促進を行っているNRW INVESTの作成資料においても国際的先進的見本市を開催する州内の見本市会場として上記4会場のみ取り上げていることから、本資料においては当該4会場に関して取り扱うこととした。

## 出展者数、来場者数（2013年）



AUMA（ドイツ産業展示・見本市委員会）発行 MesseMediaGuide2015 掲載データを基に在デュッセルドルフ総領事館で作成

## 会場面積、売上高（2013年）



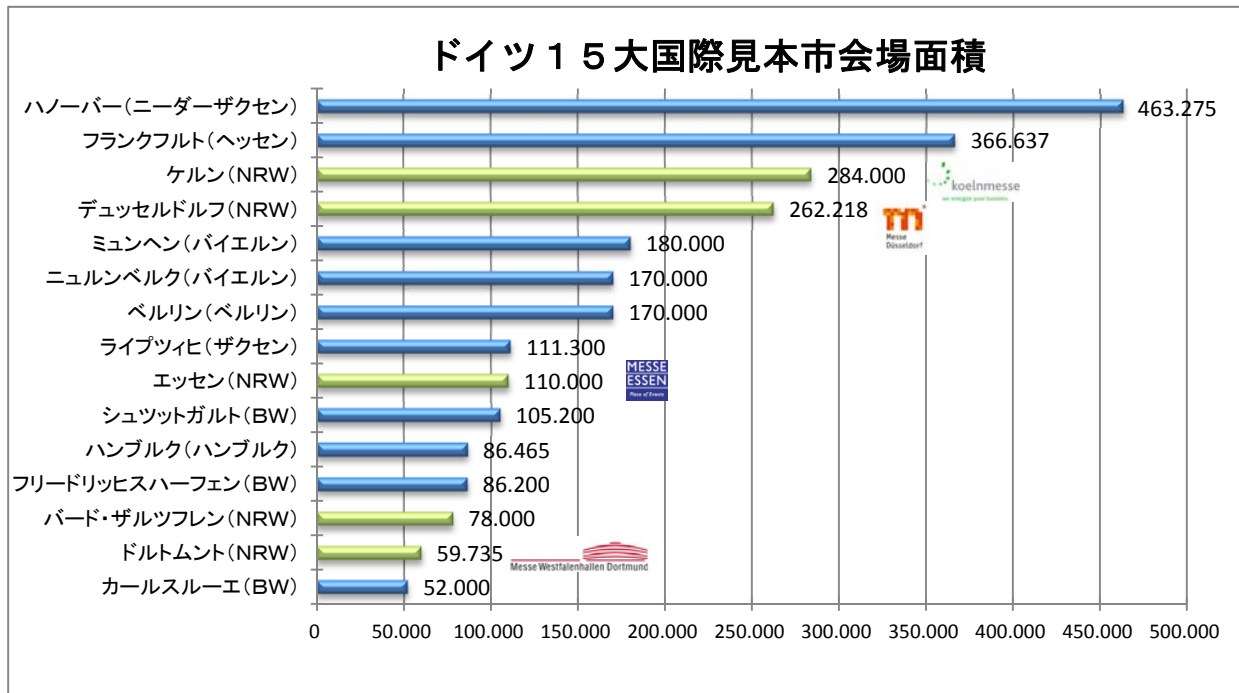
AUMA（ドイツ産業展示・見本市委員会）発行 MesseMediaGuide2015 掲載データを基に在デュッセルドルフ総領事館で作成

(参考)

ドイツのメッセの歴史は、1240年7月11日に皇帝フリードリヒ2世がフランクフルト貿易見本市の際にフランクフルト市に貿易見本市都市として特権（欧州各地の諸侯がフランクフルトを訪問する際に通行税免除）を与えたことに始まる。第二次世界大戦後は、1947年にハノーバーでメッセが再開され、1948年にフランクフルト、1949年にはデュッセルドルフで再開された。日本における見本市は、1956年(社)東京見本市協会（現在の(株)東京ビッグサイト）の設立に始まる。また、国内2番目となる1989年に開業した千葉県の「幕張メッセ」はドイツのメッセから名づけられた。

ドイツ15大メッセ会場

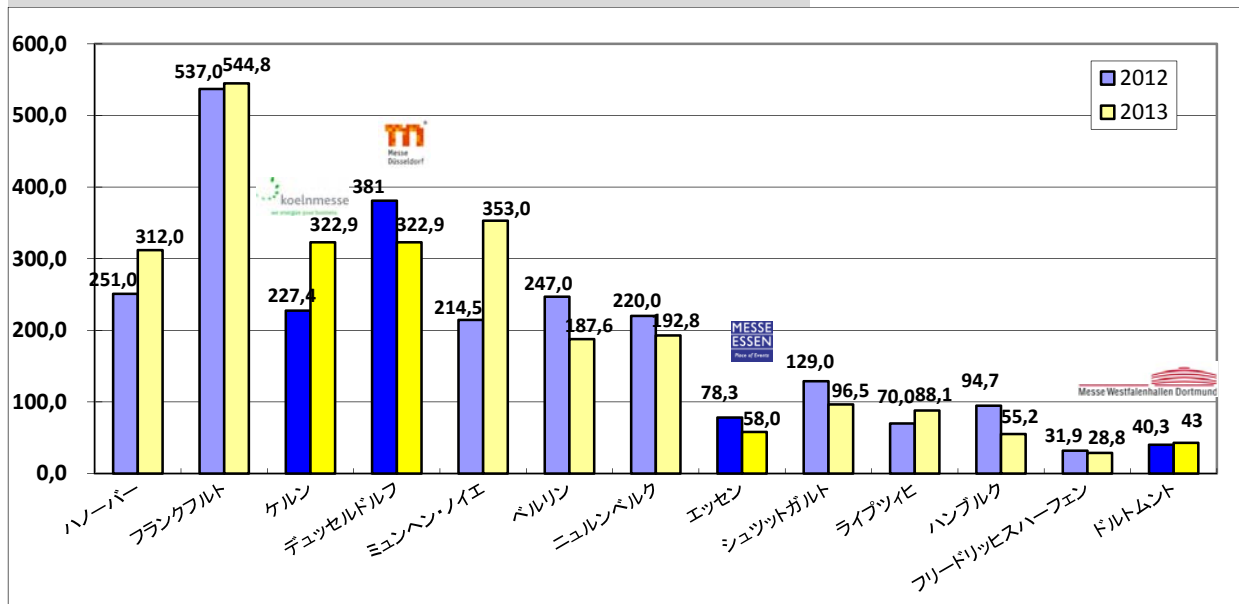
単位：㎡



AUMA（ドイツ産業展示・見本市委員会）HP掲載データを基に在デュッセルドルフ総領事館で作成

ドイツ国内主要メッセ会場売上高（2012年、2013年）

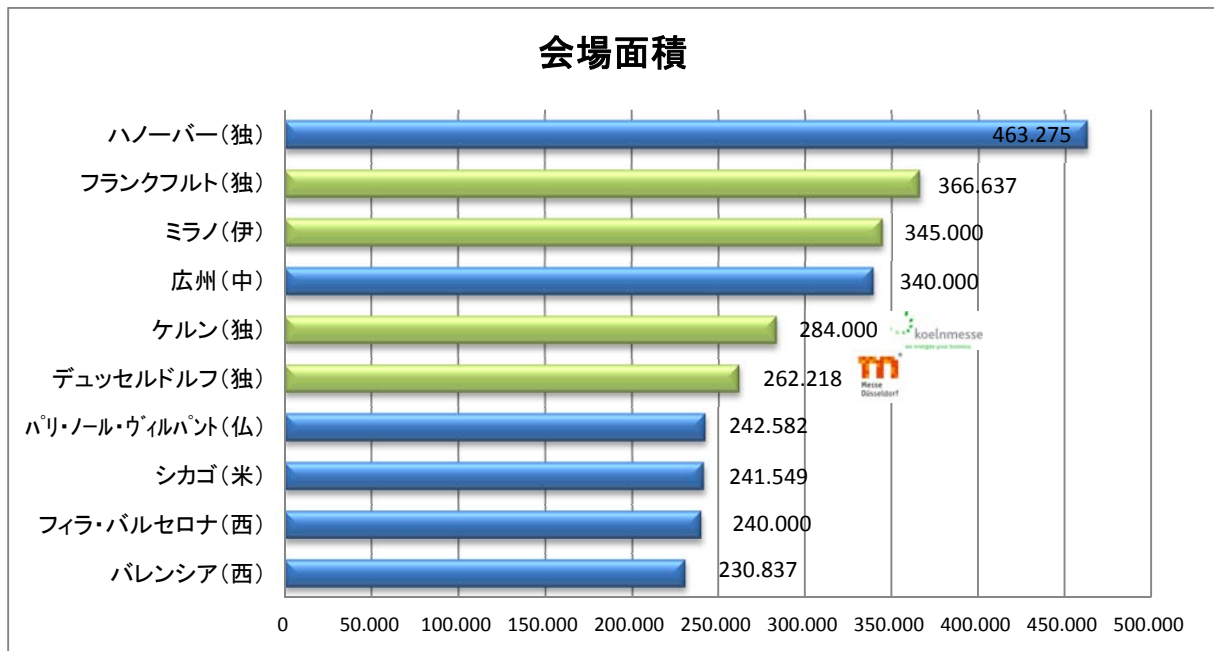
売上高：百万ユーロ



AUMA（ドイツ産業展示・見本市委員会）HP掲載データを基に在デュッセルドルフ総領事館で作成

## 世界10大メッセ会場

単位：㎡



AUMA (ドイツ産業展示・見本市委員会) HP 掲載データを基に在デュッセルドルフ総領事館で作成